



丸小だより

～ 実践目標 自分が輝く、みんなも輝く ～

平成 30 年 1 月 9 日 (火) No. 9
横浜市立丸山台小学校長 新井 篤志

次の時代に向けて

校長 新井 篤志

あけましておめでとうございます。子どもたちの元気な姿を見ることができ、気持ちも新たに新年を迎えました。今年も丸山台小学校の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いたします。

平成もあと 1 年 4 か月で終わります。実質的には平成 30 年は平成の最後の年と言えます。マスコミの言葉を借りると、この時代は先行きが不透明な未来が予測しにくい時代であったり、バブル崩壊後の失われた 20 年などと言われたりします。また、今まで見えにくかったものが表れてきた時代とも言われ、今まで以上に社会の様々なものが急速に進展してきている時代でもあります。

この時代の教育の世界を振り返ってみると、やはり大きく変化してきていると感じます。学校週 5 日制がはじまり、生活科・総合的な学習の時間・外国語活動・特別の教科としての道徳などの学習が本格的にスタートしました。学校でもパソコンからタブレットの導入へと IT を活用した教育活動が盛んになってきました。その中で、携帯電話からスマホへの移行のスピードは速く、子どもたちの多くが自分のスマホをもつのが当たり前になってきました。それに伴い、今までなかった SNS などを通じたトラブルが生まれ、いじめの防止に向けた取組なども重要になっています。学校教育の課題が、学校の中だけではとどまらず、解決に向けては家庭や社会との協力が必要な状況になってきたとも言えます。

学校教育の変化は、世の中の変化に呼応していると言えます。2020 年からの新学習指導要領の内容もこれからの時代を生きる子どもたちが身に付けてほしい資質や能力の育成に重点が置かれています。将来が予測できにくい現状から問題を解決する力を一人ひとりが身に付けるとともに、他者とコミュニケーションを図りながら協働する力も求められています。これは、今話題の AI の普及から「人間とは何か」を考えることにつながるとも言われています。

こうした時代であっても、未来に希望を見出していくのが子どもたちであると考えます。例えば、将棋界やスポーツ界など小学生とはそれほど年が離れていない 10 代の若者がそれぞれの世界で活躍する姿を見ると、勇気づけられるとともに未来への期待が膨らんでいきます。ごく普通なことではありますが、家庭を中心に学校や社会で子どもを育てるのが教育の不易なところだと思います。その中で、子どもたち一人ひとりが自分の特徴を生かして、様々な世界で活躍できるように個々の可能性を示していくことのできる場が、学校でありたいと考えます。

